

水の事故から大切な命を守ろう



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

2020.07

赤十字ってなに？



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

- いのちと健康を守る活動をしています。
- 身近な事故を予防し、いのちを守る方法を教えています。

着衣泳は、いのちを守るための授業です



水が身近な夏 危険も近づく

水の事故の約半数が6月から8月までに集中。

Water Safety News

(01)

授業中プールでおぼれ
意識不明の重体

海で溺れた高3、
友だちとも水死
2人とも

こども助けようと
父親河川で溺れ死亡

5歳男児死亡
—用水路に転落—

水は楽しい でも、あぶない

海・川・湖や沼での水遊びは、なぜあぶないの？

日本では、水が原因でいのちを落とす人がたくさんいます。

小学生も海、川、湖や沼で、

水遊びや魚とり、釣り(つり)をしている時に多くの事故がおきています。

自分にも、おこるかもしれない!? かなしい事故がおきないように、
あぶない水のことをいろいろ学んで、安全に水遊びを楽しみましょう。



水遊びには、ルールがあります。
ルールを守れば、だいじょうぶ。
しっかりおぼえて楽しく遊ぼう!



大好きな 水辺の遊び

どんどん変わるお天気に注意しよう。

海や川などの水辺では、いろいろ楽しい遊びができます。

でも、たくさんの事故もおこっています。

海や川の水は、風や雨などお天気の変化で水温や流れ、
水の色や水の底まで変わるので特に気をつけて。

また、水中の毒のある生きものや、

砂浜や水底の貝や割れたガラスなどにも気をつけて。

「自分だけは大丈夫」と安心しないこと。

せっかく来たのだからと言ってムリして遊ぼうとしないこと。

安全をしっかり確かめてから遊びましょう。



水遊びや釣りの チェックポイント

水のことを知っていれば、だいじょうぶ!

子どもの水の事故で最も多いのが、海や川、池での水遊びや釣りによるものです。

遊びに熱中して、知らないうちに、あぶないところに行ってしまったことはない?

水遊びや釣りは、あぶないことを知っておきましょう。



水遊びでやってはいけないこと

- 一人で行かない
- どん底の池などでは遊ばない
- 池や川の土手で、
草におおわれているところは近よらない
- 流れてきた物の上では遊ばない
- 波の高いときは岩場には近よらない
- 水が増えてきたら遊ばない
- 〈立ち入り禁止〉のところには近よらない

釣りをするとき注意すること

- いそ釣りは、高い波と足元に注意する。
- ライフジャケットを必ず身につける。
- 川の釣りはすべりやすいので、足元に注意する。
- ダムの下流や中ずなどは、時間によって
水の高さが変わりやすいので注意する。



ライフジャケット (救命胴衣)

ライフジャケットは体を水に浮かせ、体温を保ち、
ぶつかったときのショックをやわらげます。
釣りなど水上で遊ぶときは必ず身につけましょう。

目立つ色で、自分にあったサイズを選びましょう。

つける時はベルトをしっかりしめましょう。





海の チェックポイント

ひろくて大きい海の自然を知ろう。

海は、地球で最も広く、お天気によって、いろいろと変化します。

また、波や流れなど人の力ではどうすることもできない力を持っているので、
十分な注意を忘れないようにしましょう。

1 潮流 (ちょうりゅう)

潮 (しお) の満ち干きで、
水の高さや流れも変わる。

2 離岸流 (りがんりゅう)

岸から沖に向かう流れ。
地形や波、風の向きや
強さによってさまざまな
形に変わり、つかまると
沖に流される。

3 波

波は、潮 (しお) の流れ
や風などによってできる。
波の大きさは、海底の
ちがいによって、
いろいろと変化する。
波の高いときの水遊び
や水泳はやめる。

4 まき波 (ダンパー)

海底が急なしゃ面だと
波が一気に大きく、くず
れる。巻きこまれると、海
底にたたきつけられる。

5 磯・岩場 (いそ)

ゴロゴロした動きやす
い石の多い海岸。波を
かぶったりするので、す
べりやすい。

6 河口 (かこう)

川が海に合流するところ。
流れが強くふくざつ
になっている。

7 防波堤 (ぼうはてい)、 栈橋 (さんばし)

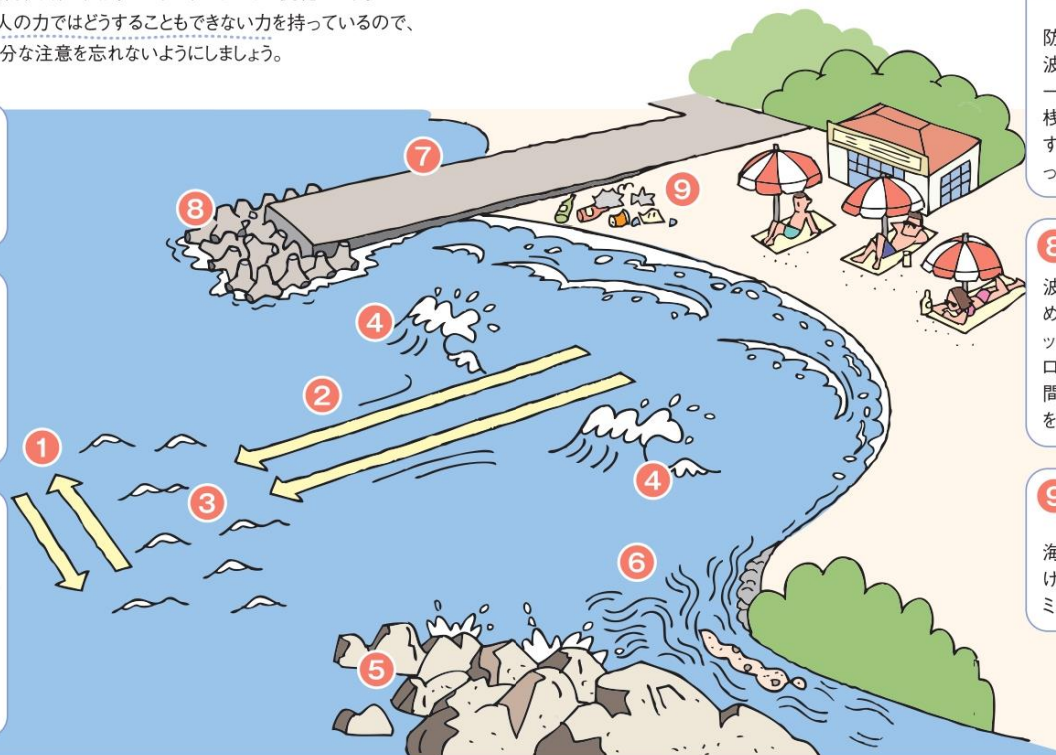
防波堤は、外海からの
波を防ぐためのコンクリ
ートの壁。
栈橋は船をつないだり
する所で、海底も深くな
っている。

8 波消しブロック

波の力をやわらげるた
めのコンクリートのブロ
ックが置かれている。ブロ
ックとブロックのすき
間に落ちないように気
をつける。

9 海岸のごみ、 流れついた物

海岸には、ガラスのか
けらや釣りバリなどのゴミ
がある。





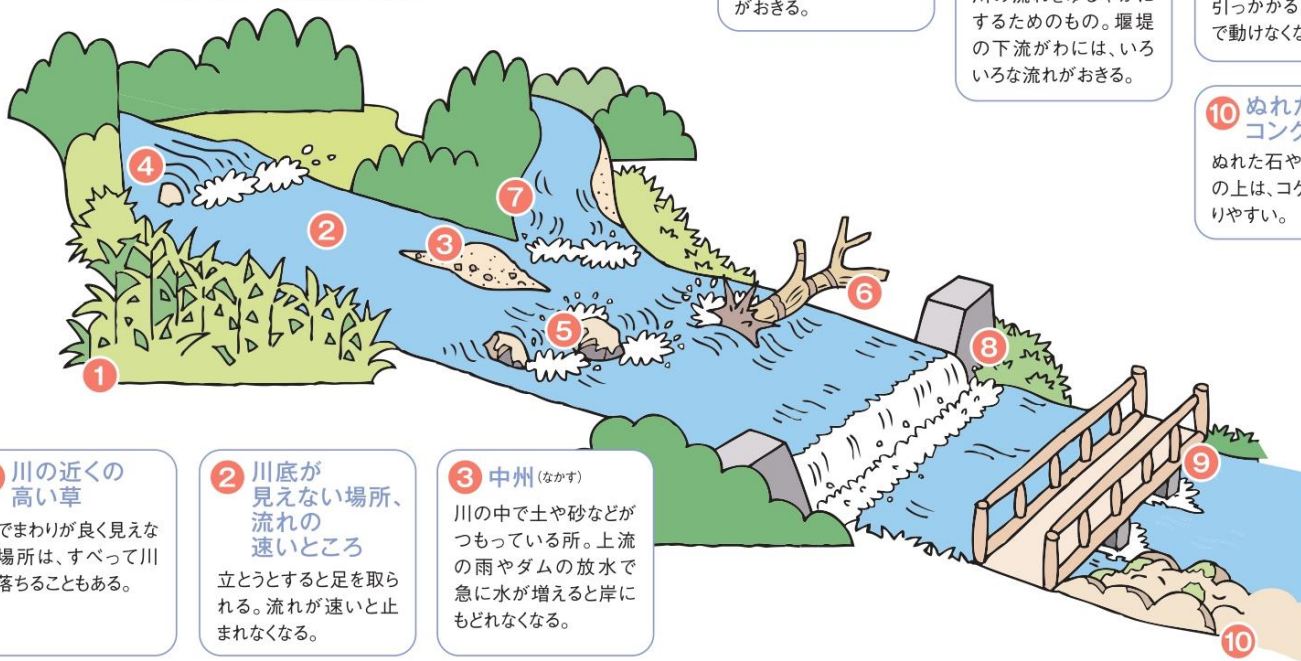
川の チェックポイント

いろいろな流れをしっかりと見よう。

川辺は自然とふれあう楽しい場所です。

でも、あぶないこともたくさん、ひそんでいます。

遊んでいる場所が晴れていても、上流では雨がふっていたり、
ダムでの放水により一気に水が増えることもあるので、よく注意しましょう。



1 川の近くの 高い草

草でまわりが良く見えない場所は、すべて川に落ちることもある。

2 川底が 見えない場所、 流れの 速いところ

立とうとすると足を取られる。流れが速いと止まれなくなる。

3 中州 (なかす)

川の中で土や砂などがつもっている所。上流の雨やダムの放水で急に水が増えると岸にもどれなくなる。

4 水面が わきあがって いるところ

川底の大きな石などに流れがぶつかってできる。

7 川の合流

2つの流れが合わさるため、急に波が大きくなったり、いろいろな流れがおきる。

5 岩

岩の大きさや形、水面の高さによって、いろいろな流れができる。流れの中にある岩に引っかかってしまうと水の重さで動けなくなる。

8 堰堤 (えんてい)

川の流れをゆるやかにするためのもの。堰堤の下流がわには、いろいろな流れがおきる。

6 倒れた木、 流れついた木

流されて木に引っかかると、水の重さで動けなくなる。

9 橋脚 (きょうきゃく)

橋を支える脚のまわりでは、いろいろな流れが発生することが多い。引っかかると水の圧力で動けなくなる。

10 ぬれた石や コンクリート

ぬれた石やコンクリートの上は、コケがありすべりやすい。



服を着たまま 水に落ちたら

いざというときに役に立つ「着衣泳」を知ろう。

衣服やくつを身につけたまま、海や川、用水路などに落ちる事故は、
水着を着て泳いでいる事故とくらべて何倍も多くおこっています。

もし、落ちて「着衣泳」の知識や技術があれば、
あわてなくても大丈夫です。



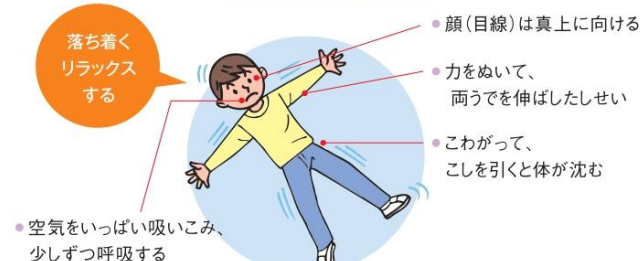
まずは 水に浮くこと

体が浮くまで、ゆっくりとあわてずに!

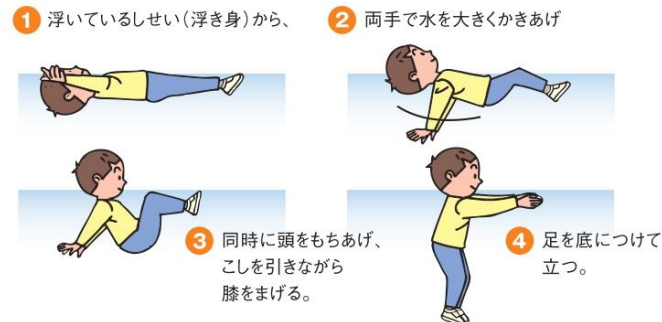
衣服を着て水に落ちた時、一番大切なことは「浮き身(浮くこと)」です。

衣服のまま、靴をはいたままで浮き身を保つために
どのようにすればよいかをよく考え、できるようにならしましょう。

浮き身のポイント



浮き身からの立ち方



スーパーの買い物袋、袋入りのお菓子でも 浮くことができます



ランドセルも、いざというときは
浮き具になります。



溺れた時の対応

事故が起きたとき、子どもだけで救出することは、二次事故につながり、危険性が高くなります。子どもにはすぐに119番通報するか大人を呼ぶように教えます。救助は、1人よりも複数で、水中に入らず陸上から、道具を用いたほうが安全です。



「友だちが溺れたら・・・？」
どうしたらいいか、
教えておくことが大切です

- 原則として、
水の中に入って助けない
- すぐに119番通報する(してもらう)
- 大きな声で大人の人を呼ぶ

救助の方法

- 溺れた人に声をかけ(もうすぐ助けが来るなど)、落ち着かせる
- 浮き身を指示し、励ます
- 長い棒を差し出す
- 自分のシャツやズボンを差し出す
- 浮き具の代わりになる物を渡す
 - ・ペットボトル
 - ・バッグ(ランドセル)
 - ・サッカーボールなど



友だちが水におぼれたら

大きな声でおとなの人を呼びましょう。

大急ぎでおとなの人を呼びに行きましょう。

絶対に水の中にはいって助けようとしては、
いけません。

「楽しい水辺の遊び」が

「悲しい思い出」にならないように。



みんなの大切な命を守りましょう